

雲仙岳の活動と島原半島

●もともと火山島だった島原半島

島原半島は、南端の口之津・早崎にあった小さな火山島の噴火から始まりました。やがて、噴火の中心が北方の雲仙岳（総称）に移り、約40万年前には九州本土とつながって“島原半島”になりました。その後、半島を南北3地域に分ける断層の形成を経て、現在に至るまで活発な噴火活動を繰り返し、立派な雲仙岳・島原半島が出来上がっています。

